

香川県における水稻の新奨励品種「つぶより」について

森芳史・藤田究・大川俊彦・多田伸司

石井清文*・井之川育篤**吉田一史***

「つぶより」は農林水産省九州農業試験場において育成され、1993年に品種登録された。本県では1989年より奨励品種決定調査に供試し、その特性について調査した結果が良好であったので、1993年に水稻奨励品種として採用した。「つぶより」の品種特性および栽培特性は、以下のとおりであった。

1. 「つぶより」は、「コトミノリ」に比べて、出穂期、成熟期とも1日程度早い中生の晩に属する品種である。「コトミノリ」に比べて、短稈で耐倒伏性は強であるが、いもち病抵抗性は弱かった。穂長はやや長く、穂数は同等かやや少なかった。収量は同等かやや劣るが、玄米の外観品質は優れていた。また、「つぶより」の食味は「コトミノリ」より優れ、「コシヒカリ」に近い良食味であった。

2. 施肥法については、「つぶより」は穂数が立ちにくく、1穂粒数が少ないことから、従来の出穂18日前の穂肥に加えて、出穂前25～30日の追肥の施用が粒数を増加させ、収量向上に有効であった。

3. 以上の結果より、「つぶより」の栽培適地はいもち病の常発地を除く、県下全域の平坦肥沃地と考えられた。

栽培に際しては、いもち病にやや弱いので適正防除に努めること、および脱粒性がやや易であるのでバインダー刈や手刈する場合は脱粒に注意すること等に留意する必要があると考えられた。

キーワード:栽培特性,奨励品種,食味,水稻,つぶより,品種特性